

平成 25 年度  
供給計画の概要

平成 25 年 3 月

九州電力株式会社

「平成25年度供給計画」は、

- ・ 地球温暖化対策も含めた国のエネルギー政策の見通しが不透明であること
- ・ 原子力発電所の再稼働に関する見通しが不透明であること

から、需給バランスなど具体的な計画を策定できない箇所は、「未定」との記載で届け出た。

〔電力販売の実績と見通し〕

項目	年度								年平均伸び率 34/23 (%)
	H 23 (実績)	H 24 (推実)	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 34	
販売電力量 (億 kWh)	854 (843)	841 (838)	847	851	859 (856)	863	869	901	0.5 (0.6)
最大電力 (万 kW)	1,495 (1,551)	1,481 (1,487)	1,548	1,558	1,568	1,581	1,592	1,650	0.9 (0.6)

(注)1. ( )は気温うるう補正後

(注)2. 最大電力は夏季の送電端最大3日平均値

〔最大電力需給バランス〕

○ 平成25年度以降の見通しは「未定」。

項目	年度	
	H 23 (実績)	H 24 (推実)
需 要 (万 kW)	1,495	1,481
供 給 力 (万 kW)	1,685	1,640
供給予備力 (万 kW)	190	159
供給予備率 (%)	12.7	10.8

(注) 最大電力は夏季の送電端最大3日平均値

〔電源開発計画〕

区分	設備	発電所および ユニット	出力	工 期	
				着 工	運 開
工事中	水 力	一ツ瀬維持流量	330 kW	H 24 年 5 月	H 25 年 10 月
		新甲佐 <sup>1</sup>	7,200 kW	H 24 年 5 月	未 定
	火力(石炭)	松浦2号	100万 kW	H 13 年 3 月	H 35 年度以降
着 工 準備中	水 力	竜宮滝	190 kW	H 25 年 5 月	H 27 年 3 月
		新名音川 <sup>2</sup>	370 kW	H 26 年 9 月	H 28 年 6 月
	火力(LNG)	新大分3号系列(第4軸)	48万 kW	H 25 年 7 月	H 28 年 7 月
	原子力	川内原子力3号	159万 kW	未 定	未 定
	地 熱	大岳 <sup>3</sup>	14,500kW [+2,000kW]	H 29 年 9 月	H 31 年 12 月

1. 新甲佐発電所新設に関連して、既設甲佐発電所(3,900kW)を廃止(時期未定)

2. 新名音川発電所新設に関連して、既設名音川発電所(65kW)を廃止(H26年10月)

3. 大岳発電所は発電設備の更新( )は出力増分)

(参考) 計画停止

設 備	発電所および ユニット	出 力	実施時期
火力(石油)	唐津2・3号	37.5万kW、50万kW	H16～34年度

(参考) 大分1・2号は平成25年3月31日に廃止予定

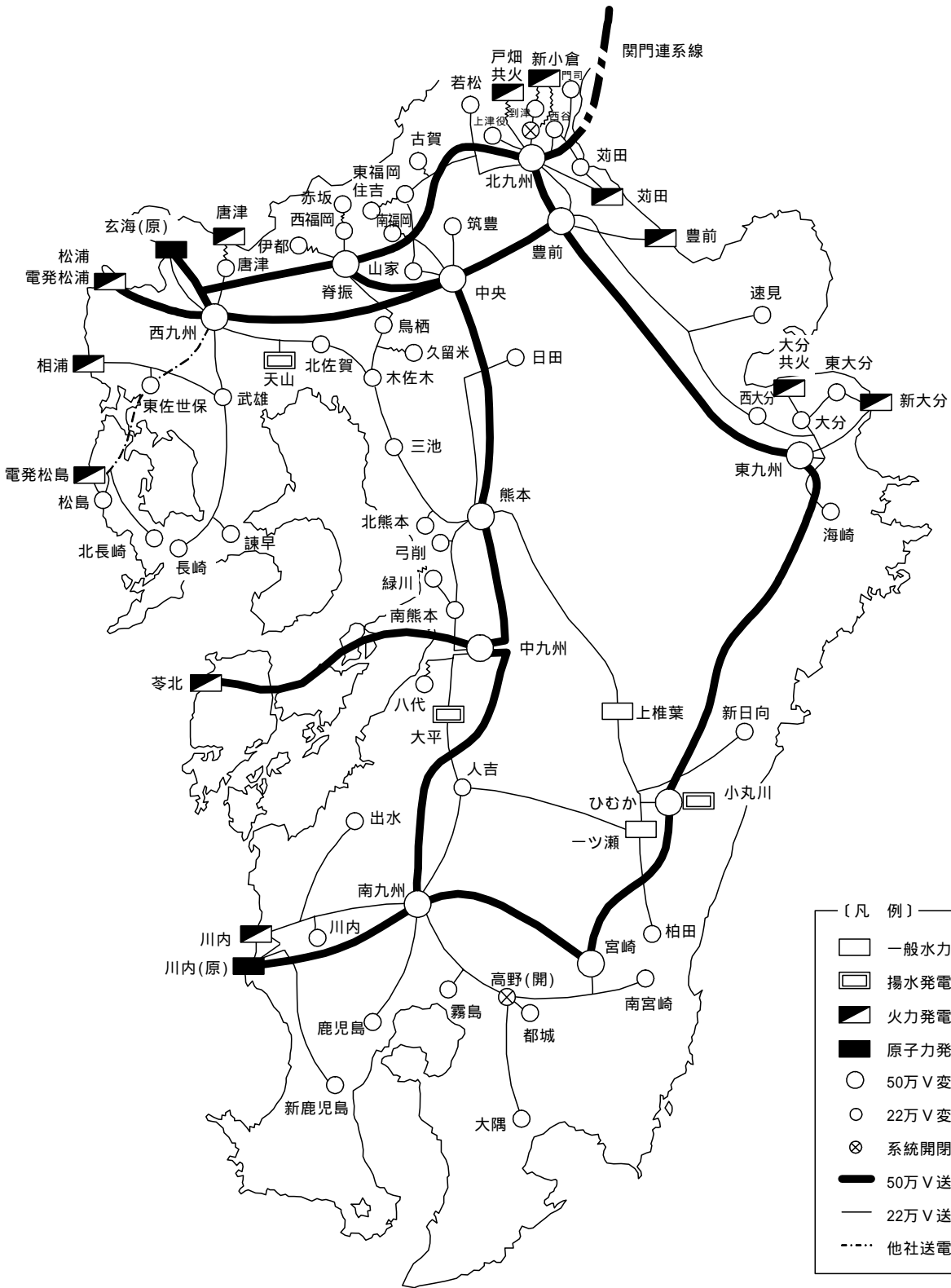
〔主要送電設備計画〕

区 分	線 路 名	工事概要		工 期		工 事 理 由
		電圧 (万V)	亘長 (km)	着 工	運 開	
工事中	一ツ瀬幹線 ひむか変電所引込	22	8	H24年5月	H26年6月	宮崎北部・中央部地区需要対策 〔新設〕
	脊振伊都線	22	20	H24年6月	H27年6月	福岡西部・糸島地区需要対策〔新設〕
	鹿児島幹線	22	44	H24年8月	H28年6月	老朽対策、鹿児島地区需要対策 〔増強〕
着 工 準 備 中	日向幹線	50	124	H26年11月	H31年6月	九州北部～南部50万V系統ルート事故対策 (2ルート化)〔新設〕
	弓削分岐線	22	1	H26年10月	H28年6月	老朽対策、熊本東部地区需要対策 〔新設〕
	新鹿児島線 川内原子力発電所引込	22	5	H29年5月	H32年3月	川内原子力発電所外部電源の 信頼性確保対策〔新設〕

〔主要変電設備計画〕

区 分	変 電 所 名	工事概要		工 期		工 事 理 由
		電圧 (万V)	容量 (万kVA)	着 工	運 開	
工事中	ひむか変電所	50/22	100	H24年7月	H26年6月	宮崎北部・中央部地区需要対策 〔新設〕
	弓削変電所	22/11/6.6	30/15/25	H23年9月	H28年6月	老朽対策、熊本東部地区需要対策 〔昇圧〕
着 工 準 備 中	東九州変電所	50/22	150	H26年9月	H28年6月	新大分3号系列第4軸輸送対策 〔増強〕
	伊都変電所	22/6.6	60	H25年11月	H27年6月	福岡西部・糸島地区需要対策〔新設〕
	大分変電所	22/6.6	30	H26年5月	H27年6月	老朽対策〔増強〕
	鹿児島変電所	22/6.6	30	H30年3月	H31年6月	鹿児島地区需要対策〔増強〕
	東佐世保変電所	22/6.6	30	H31年7月	H32年6月	佐世保地区需要対策〔増強〕

[ 基幹系統計画 ( 平成 34 年度末 ) ]



## (参考) 再生可能エネルギーへの取り組み

- 当社は、国産エネルギーの有効活用、並びに地球温暖化対策面で優れた電源であることから、太陽光・風力・バイオマス・水力・地熱などの再生可能エネルギーの積極的な開発、導入を推進。
- 昨年7月に固定価格買取制度が開始され、太陽光発電設備の連系申込が急激に増加。このため、平成32年度の太陽光・風力の導入見通しを300万kWから700万kWへ拡大。

## 〔再生可能エネルギー発電設備（当社およびグループ会社の設備量）〕

### 太陽光発電

(kW)

発電所	既 設		計 画				合 計
	カソーラ-大牟田	事業所等への設置	大村カソーラ-	佐世保カソーラ-	その他カソーラ-	事業所等への設置	
出 力	3,000	約2,300	13,500	10,000	1,980	約1,800	約32,600

グループ会社による開発

### 風力発電

(kW)

発電所	既 設						計 画	合 計
	甌 島	野間岬	黒 島	長 島	奄美大島	鷲尾岳	串 間	
出 力	250	3,000	10	50,400	1,990	12,000	約60,000	約128,000

グループ会社による開発

### バイオマス発電・廃棄物発電

(kW)

発電所	既 設			計 画		合 計
	みやざきバイオマスサイクル <sup>1</sup>	福岡クリーンエナジ- <sup>1</sup>	苓 北 <sup>2</sup> (140万kW)	松 浦 <sup>3</sup> (70万kW)		
燃 料	バイオマス(鶏糞)	一般廃棄物	バイオマス(木質チップ)	バイオマス(下水汚泥)		
出 力	11,350	29,200	重量比で最大1%混焼			40,550

1 グループ会社による開発

2 既設苓北発電所における混焼（H22～H26年度）

3 既設松浦発電所における混焼（H25年度から開始予定、700t/年程度）

### 水力発電（揚水除く）

(kW)

発電所	既 設	計 画				合 計
	139箇所	一ツ瀬維持流量	新甲佐 <sup>1</sup>	竜宮滝	新名音川 <sup>2</sup>	
出 力	1,282,136	330	7,200 ( 3,900)	190	370 ( 65)	1,286,261

1 3,900kWは、既設甲佐発電所の廃止分

2 65kWは、既設名音川発電所の廃止分

### 地熱発電

(kW)

発電所	既 設						計 画	合 計
	大 岳	八丁原	山川	大霧	滝上	八丁原ハイリ-	大 岳 <sup>1</sup>	
出 力	12,500	110,000	30,000	30,000	27,500	2,000	+2,000	214,000

(注) 新規開発に向け、資源賦存面から有望な地点で開発可能性調査を実施中

1 +2,000kWは、大岳発電所の発電設備更新に伴う出力増分（H31年12月更新予定）